

自分と真摯に向きあうこと

福岡県立嘉穂高等学校3年（福岡県）

中村 絵里佳

「すごく綺麗なお点前になったね。部長さんよく頑張ったね」

高校から茶道を学び始め3年目の集大成、卒部となる文化祭のお茶会の後に1年間部長を務めプレッシャーから解放された安堵感から泣き崩れていたときに、厳しくそして優しく愛のあるご指導をしていただいた茶道の先生がこの言葉を私にかけて下さりました。

3年前、ずっと行きたかった高校に、沢山の希望と期待を持って入学しました。「何か部活動に入りたいな」。そんな軽い気持ちでたまたま行った茶道部の見学。さっきまで一緒に楽しくお話しをしていた先輩方がお点前が始まると人が変わったような真剣な眼差し、純粹な心で一碗に向かう姿がそこにはありました。そこから迷うことなく茶道部への入部を決めました。

茶道を通して私は沢山のことを学び、経験することができたと思います。その中でも、茶道が一番私に教えてくれたことは、「自分と真摯に向き合うこと」です。

私は、周りの人から「少し落ち着きが無いよね」「弱音を吐かないよね」そんな風に言われることが多いです。人に弱い所を見せることが苦手で、何か辛いことがあっても人前で絶対に泣きたくないと思えば元氣なふりをしてやり過ごし1人で抱え込むことが多かった私は、きっと誰よりも自分と向き合うことが下手だったと思います。

お茶碗の正面は必ず相手の方へ向けることや一膝避けて立ち上がること、相手への思いやりの気持ちを忘れないことなど一見相手と向き合うことが一番大切だと思われる茶道。しかし、自分自身が整っていないと納得のいく一碗を点てることはできません。お茶を点てることはつまり自分自身と向き合うことだと私は感じます。

高校3年間、友達と喧嘩もしたし、親とぶつかったことも、部長という立場でどのように部活をまとめたら良いか、上手くいかなくて悩んだこと、苦しかったこと沢山ありました。でも、そんな時、私を支えて寄り添ってくれたのは「茶道」の存在です。お茶を点てている時間は私にとって本当の自分と向き合うことのできる時間でした。どんなに辛いことがあってもお茶を点てている時は落ち着いていられました。そして、誰よりも弱い私を少しだけ強く成長させてくれました。

最後の1年間は、部長を任せられ嬉しい反面正直きついことの連続でした。文化祭では、お茶会の準備、そして私の高校の茶道部伝統のステージでお点前を披露するステージ発表。人に頼ることが苦手で一人で何でもしようとしてしまう私は文化祭のための稽古、準備が始まると部屋で毎日泣いてしまうほど追い込まれていました。そんな私を見て支えてくれたのは3年間一緒に茶道をした仲間、先生でした。当日はステージ発表もお茶会も成功し笑顔で終わることができました。誰よりも先生から「落ち着きがない」と言われていた私でしたが、お茶会後に先生から「すごく綺麗なお点前になったね。部長さんよく頑張ったね」と言われた時は涙を抑えることができませんでした。かけがえのない仲間、礼儀、作法、人生について教えて下さった

先生に出会わせてくれた茶道には感謝しかありません。

国立大学進学を視野に入れている私は、ここからが勝負となります。これまで以上に辛く苦しい時期にさしかかります。しかし、茶道で学んだ「自分と真摯に向き合うこと」を忘れずに何事にもチャレンジしていきます。